市長所信表明（抜粋）
会派代表質問

市長　主濱　了

私は、市民の皆様の温かいご協力を賜り、滝沢市政を担うこととなりました。この上ない光栄でありますとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

滝沢市長として、日本国憲法を尊重し、かつ擁護し、市民の皆様の負託にこたえ、滝沢市の発展のために全力を尽くしてまいりますので、市民の皆様並びに議員各位のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年に滝沢村から滝沢市となり、市としての課題もあると感じております。これらの課題を一つずつ解決しながら、努力をすれば報われる、夢と希望と、安全と安心に満ちた「もっと素晴らしい滝沢」にしたいと考えております。そのためには信頼が大切であり、市民と市役所の壁を取り払い、信頼が増すよう市政の更なる透明化を進めてまいります。

それでは以下、滝沢市を「もっと素晴らしい滝沢市」にしていくために、先般の市長選挙におきまして約束させていただきました7つの政策について申し述べます。

一「充実した人生を送ることができる滝沢市をめざします」

二「産業が元気な滝沢市をめざします」

三「健康寿命の向上と福祉の向上を図ります」

四「市民生活のさらなる充実をめざします」

五「環境との共生をめざします」

六「市民が主役の滝沢市政をめざします」

七「安全で安心な滝沢市をめざします」

以上が、公約として掲げた政策でありますが、これらは現在策定を進めております第一次滝沢市総合計画後期基本計画の各政策と整合を図りながら、基本施策、施策、実行計画において具現化を図り展開してまいります。

最後に、これらの政策を展開していくためには、市民と市役所との信頼関係が重要と考えております。実現に向けては、市民、議会、行政が一丸となり対話を重ね、知恵を出し合い、汗をかきながら限られた財源を有効に活用することが不可欠であると考えております。

また、これらさまざまな取り組みを進めるためには「市民の生活が第一」であることを職員全員がしっかりと認識することが重要であり、これら認識の中で様々なことに職員がチャレンジすること、チームワークを創ることが大切であると考えております。そのための人材育成をしっかりと進めてまいります。

改めて初心を忘れず常に原点に戻り、「市民の生活が第一」の市政を実現しようと強く感じております。

Q 市長の市政実行への決意は
A 市民の生活が第一の市政の実現をめざします

一新会　遠藤　秀鬼　議員

【問】市民の皆様の負託にこたえ、本市の発展のため全力を尽くすとあるが、市長の市政実行のぞむ方向並びにその決意は。

【答】市民・議員・行政の努力によって、滝沢村の時代から築き上げてきた、現在の素晴らしい本市があると考えています。

このような中で私は「もっと素晴らしい滝沢」にするために、他自治体に依存するだけではなく、滝沢市として自立をめざし、必要な部分については他の自治体と連携を進めながら「市民の生活が第一」の市政の実現をめざしていきたいと考えています。

市政運営に当たっては、岩手県職員から参議院議員時代までの経験や知識、人脈を活かし、私の持てる力を余すず出し切り、市政を運営する決意です。

【問】「もっと素晴らしい滝沢」とは。

【答】「もっと素晴らしい滝沢」についてですが、滝沢は素晴らしい地域であり、市として更なる発展が必要と思っています。そのための一つとして、誰もが生きがいや、やりがいを持ち、現実に実践できる環境を整えることが必要と考えておりさらに、生きがいや、やりがいのある充実した人生をおくるため、健康づくりが重要と考えています。

また、中心市街地の形成が課題であり、中心市街地をつくり、賑わいと魅力をつくることが必要と考えています。

中心市街地の賑わいと魅力が市内各地からの集客につながり、このことが市内各地域間を結ぶ公共交通の運行につながるものと考えています。

これらの施策や課題への取り組みを進めていくことが、さらに住み良い地域「もっと素晴らしい滝沢」になるものと考えています。

【問】市民との対話をどのように進めていくのか。

【答】私が基本としている「市民の生活が第一」という考えに基づく市政運営を進めるに当たって、市民との対話が非常に重要であると考えています。

市民と市役所との信頼関係が重要と考えております。実現に向けては、市民、議会、行政が一丸となり対話を重ね、知恵を出し合い、汗をかきながら限られた財源を有効に活用することが不可欠であると考えております。

また、これらさまざまな取り組みを進めるためには「市民の生活が第一」であることを職員全員がしっかりと認識することが重要であり、これら認識の中で様々なことに職員がチャレンジすること、チームワークを創ることが大切であると考えております。そのための人材育成をしっかりと進めてまいります。

改めて初心を忘れず常に原点に戻り、「市民の生活が第一」の市政を実現しようと強く感じております。

Q 市民の意見や要望への対応は
A 関係課と共有しホームページに公表します

日本共産党　桜井　博義　議員

【問】市民との信頼関係が重要とのことだが、市民の意見・要望に関してどのように市民に知らせるのか。また、情報公開も信頼に大きく影響すると考えるが、今後の情報公開の考えは。

【答】メール、電話、声の箱などの要望に対しては関係課と共有し、回答・公表しています。各懇談会・アンケート等の意見・要望は対応方針を検討し、ホームページにて公表しています。

情報公開は市民との信頼関係を築くひとつの要素と捉え、積極的な公開が重要と考えています。

【問】本市の子どもの医療費助成は県内で非常に遅れていることから待ったなしで進めるべきだが、今後の考えは。

【答】子育て支援は重要と考えており、国、県に対し助成対象拡充を要望しています。本市としては財源も含め検討します。

【問】健康寿命を伸ばす施策では検診、食生活の改善策は述べているが、普段から身体や脳を動かす場を作る考えは。

【答】健康づくりの場として「元気アップ教室」「いきいきサロン」「頭とからだのはつらつ塾」の事業を展開しており、その他自主サークルやトレーニングジムなど集いの場もあります。

これらを活用しながら、健康づくりや介護予防に取り組んでいただくことは非常に重要と考え積極的に推進します。

【問】産業振興を進める上で地域に根差している中小企業の支援体制の考え方及びそのために必要な条例制定の考えは。

【答】中小企業の経営を支援するため、資金面の利子補給、課題解決のセミナー、産学官連携の取り組みなど進めています。

条例制定については市商工会からも要望があり、協議しながら支援体制も含め検討します。

【問】家族農業は地域農業の中心だが、持続させるための支援策の考えは。

【答】農業経営指導マネージャーを中心に関係機関と連携し、経営アドバイスを行い支援する一方、地域で話し合うことで担い手に農地を集積し、集落営農組織を育成していきます。

【問】広域8市町で進めるごみ処理広域化計画は候補地を一箇所に選定中であり、当該地域に環境負荷を集中させ、他の地域ではごみ問題の関心が薄れ、分別や収集など問題点も多いものと考えるが、今後の進め方は。

【答】ごみ処理広域化基本構想では発生抑制、再使用、再生利用、環境負荷の軽減、災害対策の強化など効率的な処理システムを掲げています。

また、広域化推進協議会では既存の施設を一箇所に集約し、分別基準を定めることとしており、本市でも減量化、資源化を図ります。

Q 中心市街地形成の構想は
A 32年3月の市街化区域編入をめざします

滝政会　角掛　邦彦　議員

【問】集落営農の推進施策の考えは。

【答】地域との話し合いを行い、集落営農組織化に向けた意識の醸成に努めます。

【問】担い手農業者への支援策は。

【答】生産基盤の強化及び規模拡大に伴う補助事業の導入、産学官連携や異業種連携による新たな価値の創造を関係機関と共に支援します。

【問】中小企業への支援は。

【答】滝沢市商工会が策定し、認定を受けた「経営発達支援計画」により、産学官連携を強化し、経営体質強化を図ります。

【問】中心市街地形成の構想は。

【答】「盛岡広域都市計画区域区分の定期見直しスケジュールにより、32年3月の市役所周辺の市街化区域編入をめざし、関係機関と協議・調整を進めています。

【問】公共交通の施策は。

【答】中心市街地形成に合わせた路線バスの運行経路を見直すなど、交通事業者と協議を進めたいと考えています。

一方、バス停まで遠いなど、地域によって交通需要や条件が異なることから、地域特性に応じた交通サービスの検討を進めます。

【問】再生可能エネルギー促進に向けての施策は。

【答】電力自給率の向上をめざし、太陽光発電を含む再生可能エネルギー施設の設置については、周辺環境との調和に配慮し推進します。

【問】ごみ減量化に向けた新たな施策は。

【答】循環型社会の実現のため、ごみ減量化及び資源化に取り組み「（仮）滝沢市ごみ減量化計画」を策定します。

【問】財源確保に向けた施策は。

【答】市税を確保し、更に伸ばし、産業振興や企業誘致を加速して取り組みます。

【問】「住民自治日本一」の継続は。

【答】市政の透明化をさらに進め、市民と行政との信頼関係を築き「住民自治日本一」をめざします。

【問】国への要望活動は。

【答】岩手県職員から参議院議員時代までの経験や知識、人脈を活かし活動します。

【問】「住民自治日本一」をどのように反映させていくのか。

【答】市民の声に耳を傾けながら、必要性と実現性を調査し、第一次滝沢市総合計画と財政との整合を図ります。

【問】危険箇所除去に向けた施策は。

【答】河川事業及び下水道事業の雨水関連による浸水対策に取り組み、都市化が進む地域の雨水計画を見直し、対策を検討します。

【問】行財政改革における人材育成は。

【答】効果的な施策、事業を実行できる人材の育成と経営品質の考えを取り入れた研修を通じ、継続的に人材育成に努めます。

Q 「おもてなし」の心をどのように醸成するのか
A 手法を総合計画後期基本計画に掲げ推進します

公明党　相原　孝彦　議員

【問】「おもてなし」の心を市民に醸成させるための施策は。

【答】市民が地域の魅力に気づき、市内外にその魅力を伝え交流人口が拡大することで本市のファンが増え、魅力を発信できます。

各関係団体、事業者等と連携し、市の地域資源の魅力を効果的に情報発信する仕組みづくりや、観光資源を活かしたまちづくりに取り組む先駆的な人材育成支援など、総合計画後期基本計画に掲げ推進します。

【問】特産品の生産拡大や品質統一への考えは。

【答】スイカを例にすると、年々作付面積が減少傾向のなか、新たに若い農業者が、馬ふん堆肥を使用し付加価値を高める取り組みにより生産の拡大が期待されます。

商品が不均一だと特産品のイメージダウンとなり、滝沢スイカのブランド力を維持し優良な品質の確保のため、共同選果や要であると認識しており、今後も電力自給率の向上をめざし、国及び県の補助制度等を注視し、機会を捉えながら検討します。

【問】緊急車両の到達に15分以上かかる地域への対応策は。

【答】救急車の滝沢市内に限定した救急出動到着時間の平均は、28年が9・1分、29年が9・15分となっています。到達に15分以上かかる地域もありますが、今後も傷病者の迅速な救急対応は、盛岡地区広域消防組合消防本部及び滝沢消防署等と連携していきます。

【問】中心市街地の形成に伴う道路の整備、交通網の整備等の予算確保は。

【答】中心市街地形成に伴う道路整備は、開発区域内は事業者が、関連アクセス道路は市がそれぞれ行うよう協議しています。

財源は、国の補助金等を予定し、予算の確保に努めます。

【問】再生可能エネルギーの蓄電の考えは。

【答】再生可能エネルギーは、発電量を安定させることが困難であることから、安定的な送電を行うために蓄電池の活用は重要であると認識しており、今後も電力自給率の向上をめざし、国及び県の補助制度等を注視し、機会を捉えながら検討します。

Q 市長立候補に当たっての政策と目標は
A 七つの政策を推進します

新志会　山谷　仁　議員

【問】市長は立候補に当たってどのような政策、目標を持って臨んだか、また今考えている政策は何か。

【答】七つの政策を推進し「もっと素晴らしい滝沢」をつくることを目標として市政推進をしてまいります。

一「充実した人生を送ることができる市をめざします」。誰もが生きがいを持ち、現実に実践できる環境を整えます。

二「産業が元気な市をめざします」。一次、二次、三次産業への支援、観光については地元資源の活用と近隣市町との連携をしていきます。また「おもてなし宣言」による、おもてなし意識の醸成を図ります。

三「健康寿命の向上を図ります」。望ましい食生活や健康診断の受診率向上、子どもへの医療支援、バリアフリー化の推進、高齢者支援システムの構築を進めます。

四「市民生活のさらなる充実をめざします」。中心市街地形成、市内各地域間の公共交通の運行、コンパクトシティを検討します。

五「環境との共生をめざします」。自然景観の保全、一般ゴミの減量化、再生可能エネルギーなどの供給促進をします。

六「市民が主役の市政をめざします」。投票率の向上、市民が主役の市政、健全な財政の運営を行います。

七「安全で安心な市をめざします」。関係機関と連携した減災、火災や事故を抑止し、日本国憲法の尊重擁護、犯罪の無い社会をつくります。

【問】3期12年の行政運営を担った柳村前市長のそれぞれの施策に関して、これは継続していくべきと考えるもの、あるいはこれは止めるべきと考えることは。

【答】滝沢は素晴らしい地域であると思っています。

これは村の時代から歴代の首長、議員、職員、そしてなにより市民の努力の賜物であると思っており「もっと素晴らしい滝沢」にしていくことが使命であると考えています。

【問】今、本市の財政がひっ迫しており、行政改革の最中にあるわけだが、市長はこの現状をどのように考え、今後の方策をどのように立てて行く考えなのか。

【答】市民ニーズの多様化や、急速な少子高齢化の進展、幼児教育と保育の無償化など、社会保障関係費の増大、さらには施設の老朽化・改修対策も必要であり、継続性のある安定した財源確保が喫緊の課題と捉えています。

「入りをはかりて出（いず）るを為す」を基本としながら、市民、議会、行政がひとつとなり、現在取り組んでいる財政構造改革をさらに進め、財政課題を一つひとつ着実に解消していきたいと考えています。